

東京2020パラリンピックの成功とバリアフリー推進に向けた懇談会
パネルディスカッション テーマ2「心のバリアフリーを広めるために」

基調報告

「パラリンピックの落とし穴—— 「心のバリアフリー」が危ない！」

星加良司(東京大学)

2020年9月、パラリンピック観戦後...

〈A中学校〉

「障害を乗り越えて競技をしている姿に感動した」

「障害があるのに明るく、前向きに競技に取り組んでいてすごいと思った」

「障害があってもあんなにがんばっているんだから、自分もがんばらなきゃいけないと思った」

〈B中学校〉

「パラリンピックがオリンピックと別に行われていることに疑問を感じた」

「何かもやもやして、純粹に楽しめなかった」

「なぜ自分のクラスに障害のある人がいないのか、よく分からなくなった」

「心のバリアフリー」とは何か

- 「ユニバーサルデザイン2020行動計画」(2017年2月、関係閣僚会議決定)
- 「共生社会の実現に向けて社会の在り方を大きく変える絶好の機会である」
- 「我が国が共生社会に向けた大きな一歩を踏み出すきっかけとしたい」



いまだ実現していない目標としての「共生社会」

共生社会実現のための2つの柱(「ユニバーサルなまちづくり」&「心のバリアフリー」)

〈「心のバリアフリー」3つのポイント〉

- 「障害の社会モデル」の理解
- 差別をしない(合理的配慮を提供する)というルール of 徹底
- 他者とコミュニケーションを取る力、困難や痛みを想像し共感する力

鍵となる考え方としての「社会モデル」

●「障害の個人モデル／医学モデル」

＝障害者が経験する困難は、その人が(不幸にも)持ってしまった機能障害によってもたらされているという考え方。

→障害者はそうした困難を克服する努力を行っており(あるいは行うべきであり)、それに応じて周囲の人々も理解・協力・支援しており(あるいはすべきであり)、それによって社会参加も可能になる。

●障害の社会モデル

＝障害者が経験する困難は、その人の中にある機能障害によって生じているのではなく、周りの環境や制度、ルールなどが障害のない人(多数派)の都合に合わせて作られていることによって生じているという考え方。

→多数派にとっての利便性が少数派にとっての社会的障壁になる。

→社会的障壁を取り除く(社会の偏りを是正する)ことが必要



・最低限のルール作り(障害者権利条約、障害者差別解消法、東京都障害者差別禁止条例)

パラリンピックが伝えるメッセージ

●パラリンピックの価値(国際パラリンピック委員会)

- 勇気(Courage)
= マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力
- 強い意志(Determination)
= 困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力
- インスピレーション(Inspiration)
= 人の心を揺さぶり、駆り立てる力
- 公平(Equality)
= 多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力

「感動物語」の作り方

●「苦難→克服→成功」という鉄板のストーリー

- 苦難＝機能障害
- 克服＝障害受容、トレーニング（＋周りの支え）
- 成功＝パラリンピック出場（＋メダル獲得）



- 「機能障害→苦難」という「個人モデル／医学モデル」の前提
 - 「勇気」＆「強い意志」→「インスピレーション」
- * どこかで見たようなフレーズでは？

パラリンピックのレガシーのために

●「公平(Equality)」への着目

- Equal footingやFair conditionのためのルール、レギュレーション、レフェリング、思想



- * 「オリ／パラ」の分離は？
- * 「普通」のスポーツは？
- * 社会全体(あなたの職場、学校、街)は？
- * 「障害」以外の問題は？